



平成 27 年 1 月 29 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ ボ ミ ッ ク
住 所 東 京 都 港 区 白 金 台 三 丁 目 16 番 13 号
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 中 村 義 一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員 管 理 部 長 宮 崎 正 是
TEL. 03-3440-3303

当社自社創薬における新規医薬品候補物決定のお知らせ

～糖尿病性網膜症及びアトピー性皮膚炎の悪化や慢性化の治療を目指す
「抗ペリオスチン・アプタマー(開発コード番号 RBM008)」～

当社は、基礎・探索研究の段階で自社創薬ターゲットに対して創製したアプタマーを *in vitro* 細胞試験で評価し、医薬候補品の絞り込みを行うとともに、その中で、高いポテンシャルがあると認めたアプタマーについて、開発コード番号を付与し、医薬品候補物として更なる研究開発を進めることとしております。

これまで、既存4テーマに続く自社創薬のひとつとして、糖尿病性網膜症やアトピー性皮膚炎の悪化や慢性化の原因タンパク質として考えられている「ペリオスチン」を標的としたアプタマーの基礎・探索研究を進めてまいりました。その結果、前臨床試験を進めることが可能な候補物の特定に成功しました。これに伴い、本日開催の執行役員会において、開発コード番号「RBM008」を設定し、更に研究開発を推進することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

ペリオスチンは、糖尿病性網膜症、アトピー性皮膚炎の他、心不全や癌転移等の疾病に関与するとの報告があります。更に、喘息患者において、ペリオスチンが高値を示すことも知られております。

当社としては、糖尿病性網膜症及び重症化し現行の治療薬で満足すべき治療効果のあげられない重症アトピー性皮膚炎を適応疾患とした治療薬としての開発を進めてまいります。

なお、本テーマは自社創薬品目として自社での開発を目指しますが、それにとらわれず当社から提案する大手製薬会社との共同開発テーマとしての可能性も追求してまいります。

現在、調査した限りにおいては、ペリオスチンを分子標的薬とする市販の医薬品や臨床ステージにある他社開発品は世界的にないものと判断しております。

下図は、本新規候補品 (RBM008) を含む、当社における、研究開発の現状を示したものです。

研究開発形態	Project No.	標的名	開発中の適応症	基礎・探索研究	前臨床試験			臨床試験	備考 (追加可能な適応疾患等)
					<i>in vitro</i> <i>in vivo</i> 試験	予備毒性試験	GLP試験	第I相	
共同研究開発	RBM001	Midkine	免疫・炎症性疾患						
共同研究開発	RBM002	非開示	血液疾患						
共同研究開発	RBM003	非開示	線維症						
自社開発 (藤本製薬ヘライセンス・アウト済)	RBM004	NGF	疼痛						
自社開発	RBM005	HMGB1	敗血症						循環器疾患 他
			線維症						
自社開発	RBM006	Autotaxin	肺線維症						癌、癌性疼痛 他
自社開発	RBM007	FGF2	骨疾患						癌、リウマチ 他
			癌性疼痛						
			線維症						
			加齢黄斑変性症						
自社開発	RBM008	Periostin	糖尿病性網膜症						アトピー性皮膚炎 他

今期の業績への影響

本件が今期の業績に及ぼす影響は、現時点ではありません。

以上

<用語について>

ペリオスチン

ペリオスチンは、1999年に東京工業大学の工藤明教授が歯の組織から発見しました。発見当初は歯を含む骨組織の再生に働く分子として考えられていました。しかしその後の研究により、細胞外マトリックス（細胞外の空間を充填する網目構造）として組織の構造維持あるいは病的な線維化に関与することも明らかにされ、更に、近年、アトピー性皮膚炎の慢性化や増殖糖尿病性網膜症等の疾患の原因物質としての機能に関する報告がなされています。

株式会社リボミックについて

株式会社リボミックは、次世代新薬として注目されている核酸医薬の一種「アプタマー医薬」の開発を目的とする、創薬プラットフォーム系バイオベンチャーです。株式会社リボミックの創薬基盤技術である「RiboART システム」は、様々なアプタマー医薬の開発に応用することが可能です。株式会社リボミックは疼痛・線維症・血液疾患・骨疾患を始めとして、広い領域の Unmet Medical Needs（未だに満足すべき治療法のない疾患領域の医療ニーズ）に対する新薬の提供を目指してまいります。